

祝 卒業 75 期 生



〔231号〕
令和5年3月1日発行
福岡県立小倉高等学校
新聞部
写真提供：写真部
北九州市小倉北区
愛宕二丁目8-1
印刷
株式会社福田印刷



感謝

君の後ろに道はできた

校長 席谷 浩一

令和2年2月27日、当時の総理大臣による記者会見で、全国の学校に突然の休校要請が行われた日です。当時、75期生諸君は中学3年生、受験や卒業式を控え、今からどうなるのだろうかと不安を感じたのではないのでしょうか。

あれから3年、君たちの高校生活は、新型コロナウィルス感染症に振り回され続けた日々でした。5月にずれ込んだ入学式、慣れないオンライン授業、中止や延期、形式の変更を余儀なくされた学校行事や部活動、我々教員を含め、前例も正解もない状況での判断と行動を求められたのです。

「僕の前には道はない、僕後ろに道は出来る」

諸君の3年間を思うと、高村光太郎の詩「道程」の一節が出てきます。

74代生徒会発足後に実施した、体育大会(ブロックマッチ)、オンライン学校開放説明会、文化祭の三大倉高行事、あらかじめ誰かに決められてい

る目的地も、先輩方が長い時間をかけて築き上げてきた道も見えない、そんな中で一歩、必死に歩んでくれた75期生諸君には、敬意と感謝があります。諸君の足跡が新たな道となり、倉高の歴史と伝統を継承していくことができます、本当にありがとうございます。

「コロナ禍」と表現されるこの3年間でしたが、新型コロナウィルス感染症がもたらしたものは禍だけではなく、福もありました。学校生活では一人一台タブレットを代表とするICT環境が一気に進みました、社会の常識を見直すきっかけにもなりました、そして何より大きな福は、今まで通りが通用しなくなったことにより、変化をすることが当たり前になってきた、変化せざるを得なくなってきたということです。

変化は人を成長させます、変化は創造の原動力となります。

先行き不透明で将来の予測が困難な今の時代に必要なら

とは、変化を恐れず、新しいフィールドに足を踏み出し続けること、新たな価値を創造し続けていくことです。75期生諸君はこの小倉高校で、変化を恐れず、新しいことに挑戦し続けてきました。これからも勇気をもって変化し続け、よりよい未来を創る主体者に成長してください。

75期生の未来が前途洋々たることを祈念しています。卒業おめでとう。

【追記】

よく知られている高村光太郎の「道程」はわずか9行の詩ですが、最初に発表されたのは102行にわたる長い詩でした。9行の詩も素晴らしいのですが、発表当初の「道程」を読むと、より情熱的で湧き上がるエネルギーを感じます。皆さんに読んでもらいたいのですが、ここで紹介するには紙面が足りません。興味のある方は、探して、読んでみてください。